

健康情報

予防接種



予防接種とは、ワクチンを接種することで、感染症に対する免疫をつけたり、免疫を強くすることができます。また、自分自身が感染症にかかりにくくなるだけでなく、社会全体でも流行を防ぐ効果があります。

予防接種法に基づく「定期予防接種」は主として乳幼児～学童時に接種することが多く、皆さんもご自分の母子手帳で接種状況を確認しておくといでしょう。

※ マンガでわかる大学生の VPD ブック

日本では、発症が少なくても海外では多くの患者数の報告がある病気もあります。近年、諸外国での麻疹の流行が報告されており、国内への渡航者による患者発生が確認されています。今後感染拡大の恐れがありますので注意しましょう。

麻疹について



麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身性感染症です。感染経路としては、空気感染（飛沫核感染）、飛沫感染、接触感染など様々な経路があります。感染力は極めて強く、麻疹の免疫を持たない人が感染するとほぼ100%の確率で症状が現れ、一度感染して発症すると生涯免疫が持続すると言われています。

麻疹の症状

麻疹ウイルスの感染後、10日～12日間の潜伏期ののち、発熱や咳などの症状で発症します。38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感、咳、鼻水、くしゃみ、結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなどが現れて次第に強くなります。

発疹が現れる1～2日前頃に口内の粘膜に1mm程度の白い小さな斑点（コプリック斑）が見られます。その後、体温は一旦下がりますが、再び高熱が出るとともに、赤い発疹が見られ全身に広がります。

発疹出現後3～4日で回復に向かい、合併症がない限り7～10日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹らないよう休養が必要です。麻疹の合併症としては、肺炎、中耳炎、脳炎などがあり、脳炎の発症頻度は低いものの、重篤な状態になることもあり、注意が必要です。

麻疹の発生状況

日本は、2015年にWHOより麻疹排除状態（12か月以上、麻疹ウイルスが存在しない状態）にあると認定されました。しかし、排除達成後も海外からの旅行者を発端とした発生や医療機関等での発生などが見られ、2019年の年間届出数は、744例で排除達成後、最多でした。

2020年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴う国内外における人の往来制限の影響等から年間届出数は10例と大きく減少し、2021年、2022年はさらに少ない6例でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の水際対策が緩和された2023年は28例と増加しました。28例の内訳ですが、性別・年齢別では、男性：68%、20～39歳：64%、麻疹含有ワクチン2回接種を完了していない者（含不明）：86%で、20～30歳代の男性で麻疹含有ワクチン2回接種を完了していない学生は注意しましょう。2023年および2024年3月10日現在、福岡県内での届け出はありませが、国内での届け出は2月下旬より、届出数が見られています。

※ [参考：世界で流行している麻疹](#)

◆ 海外渡航の時には渡航先によって、予防接種が義務付けられているもの、接種が望ましいものがありますので、確認が必要です。

※ [参考：海外へ渡航される皆様へ](#)

FORTH（厚生労働省検疫所）

渡航先の感染症の最新の流行状況や予防方法などの情報、必要なワクチンについても検索できます。

